

しらさぎ24訪問介護看護ステーション
第3期 第3回 介護・医療連携推進会議 報告書

開催日時	令和 元年 7月19日(金) 18:30～20:00												
出席者 (12)名	<ul style="list-style-type: none"> ◆利用者(－)名 ◆利用者家族(－)名 ◆地域住民代表(－)名 ◆民生児童委員(1)名 ◆医師(－)名 ◆地域包括支援センター(2)名 ◆連携訪問看護(3)名 ◆中野区介護サービス事業所連絡会 <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護部門(1)名 ・介護支援専門員部門(1)名 ◆事業所職員(4)名 												
討議期間	平成31年 3月 5日 ～ 令和 元年 7月10日												
利用状況 (令和元年7月10日現在)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>現在利用者数 (27)名</td> <td colspan="2">延べ利用者数 (83)名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">要介護1…12名</td> <td style="text-align: center;">要介護2… 5名</td> <td style="text-align: center;">要介護3… 3名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">要介護4… 4名</td> <td style="text-align: center;">要介護5… 2名</td> <td style="text-align: center;">申請中 … 1名</td> </tr> <tr> <td colspan="3"> <ul style="list-style-type: none"> ・新規利用開始…10件 ・利用終了…10件 ・訪問看護(連携型)利用…8件 (医療保険での訪問看護…5件) </td> </tr> </table>	現在利用者数 (27)名	延べ利用者数 (83)名		要介護1…12名	要介護2… 5名	要介護3… 3名	要介護4… 4名	要介護5… 2名	申請中 … 1名	<ul style="list-style-type: none"> ・新規利用開始…10件 ・利用終了…10件 ・訪問看護(連携型)利用…8件 (医療保険での訪問看護…5件) 		
現在利用者数 (27)名	延べ利用者数 (83)名												
要介護1…12名	要介護2… 5名	要介護3… 3名											
要介護4… 4名	要介護5… 2名	申請中 … 1名											
<ul style="list-style-type: none"> ・新規利用開始…10件 ・利用終了…10件 ・訪問看護(連携型)利用…8件 (医療保険での訪問看護…5件) 													
(1)報告事項	<p>◎現状報告</p> <p>[人員体制]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームメイト事業所1か所増(バタフライ中野) ・8月～非常勤職員1名減予定 <p>[利用者]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月:25名 / 4月:27名 / 5月:26名 / 6月:27名 / 7月:27名 <p>※今年度目標「月平均利用者数 24名」</p> <p>[相談]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期間中 28件 ・内容：末期癌等の方の退院に合わせてサービス開始という相談→「退院前に逝去され利用に至らず」「利用期間が非常に短い」というケースが多くあった。また、5月に区内中部の定期巡回事業所が閉鎖したため、中～南部からの問合せが多数あった。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問が集中する朝・夕の稼働率が上がる人員配置の工夫が必要。 →以前から課題として挙げており、チームメイトヘルパー増による若干の改善にあるが、今後も継続的な検討が必要。 ・緊急時におけるオペレーターの適切な判断、対応が充分にできていない。 →緊急通報が多くなっており、個々の判断だけでは対応しきれないケースがあったため、研修やミーティング等で職員間の連携のし方、判断基準の検討、明確化する必要がある。 ・令和元(平成31)年度目標「月平均利用者数 24名」を確保、維持、最終的な達成をするために効果的な営業活動の方法の検討が必要。 →相談は安定的にあるが、利用方法等が正しく理解されていない事が相応にあるため、再周知のためのある程度大きな規模の活動が必要な状況。ただし現体制では困難であり、営業活動に組込む等のより効果的な方法の検討が必要。 												

しらさぎ 24 訪問介護看護ステーション
第 3 期 第 3 回 介護・医療連携推進会議 報告書

		<p>[今後の取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北部圏域を中心とした、新規利用者獲得のための営業活動。 ・利用者増に対応可能な人員体制強化のためのチームメイト事業所開拓。 ・職員の資質、サービスの質の向上に向けた研修の強化。 ・次年度目標「月平均利用者数 24 名」達成、維持に向けた取組みの具体化。
(2)苦情、意見等	0 件	今季の苦情・要望なし
(3)事故等	1 件	<p>【サービス内容不足】 1 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デイサービス送出不必要と勘違いして退出。追って送出自ら必要だったことが判明。デイサービス送迎車の時間を再調整してもらい、再訪問で対応。予定変更が多い利用者だったため、訪問前にデイサービスに利用の有無を確認したが「無し」というキーワードについて しらさぎ 24：デイサービス利用無し デイサービス：予定の変更無し との齟齬があった。 →他者との確認作業は確実かつ丁寧に行う。他事業所との間の場合は特に注意する。
(4)その他 質疑応答、要望、助言等		<ul style="list-style-type: none"> ・医療面に係わる緊急時の判断をどこまでして良いのか迷う。 →迷うのであれば「まずは相談ありき」で良いのではないかと。抱え込んで自分たちで何とかしようと思うより、医師であれ訪問看護であれ、当該利用者に関係している医療職に相談すれば良い。最終的に判断するのは医師であると割り切り、そこにどう繋げるかを考えるべき。 ただし、クラウドシステムは情報共有に有効ではあるが、緊急時の情報伝達には不向きな面があることを認識した方が良い。 ・多職種間での協力について。 →緊急時や随時訪問に際して、複数の人員が必要となる場合、多職種間での相互協力を試行した。双方から 1 名ずつが訪問という形をとり、上手く対応ができる手ごたえがあった。今後は特に夜間をメインに継続的な協力体制を構築できるよう検討しているが、医療との連携のあり方が課題となる。 ・利用者の本当のニーズが何であるのかを掴むのが難しい。 →声掛け、質問のし方で自ずと答えも変わってくる。声掛け、質問の工夫、普段の会話、複数(職員間、多業種間を問わず)のすり合わせ等、色々なアプローチの中から拾い上げていくことが大切ではないか。 ・その他(まとめ的に) 日中の人手がある時間帯のケアを厚くして、夜間に本人が落ち着いた状態で過ごせるようにするといった生活サイクルの構築等、あくまでも利用者本人主体というスタンスの中で、物理的、物質的なことに限らず、利用者と事業者双方が安心できる、緊急事態が起こらない環境づくりが最重要課題。
次回開催予定		・平成 31 年 11 月 15 日頃